



SimCapture スキルトレーニング 活用事例



看護を学ぶ学生たちの演習とその管理をサポートするシステム「SimCapture」は、デジタル化が進む社会ニーズと人手が不足している学習現場の新たなサポーターとしてどんなことができるのか。その事例を求めて、愛媛県立医療技術大学を訪ねた。

愛媛県立医療技術大学

豊かな人間性と尊い倫理観によって培われた高度の知識と技術を有する医療人を育成し、人々の健康と福祉の増進に寄与することを基本理念に昭和63年、短期大学として設立。平成16年に4年制大学となる。

領域を横断して活用されたSimCapture

愛媛県の医療を担う人材を教育する機関である愛媛県立医療技術大学は、松山市内中心部から車で約30分の自然豊かな場所にあり、看護師・保健師・助産師ならびに臨床検査技師を目指す400人を超える若者が集う。今回訪ねたのは、同大学の保健科学部看護学科だ。

看護学科には、複数領域の教員が担当して看護過程の展開と看護実践の演習を含む科目「アセスメントⅡ」がある。このアセスメントⅡで活用されているのが、SimCaptureだ。同大学のアセスメントⅡは領域横断的な教育を目指しているのが特徴で、成人看護学や小児・母性看護学などの領域が参加しており、SimCaptureはそれぞれの方法で活用されている。

導入が始まったのはコロナ禍真っ只中だった2021年。ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業の助成を受け、導入はスタートした。導入時、学内ではDX推進グループや学科長が中心となり、シミュレーション教育の充実や能動的学習の促進を目指してオール看護学科での取り組みが始まったという。

今回お話を聞いたのは、成人老年看護学の仲田先生。SimCaptureの中でもスキルトレーニングに力を入れてこられた実績を持つ。コロナ禍から始まったデジタル化の波は、どのように学生たちの学習を変えていったのかを伺った。

コロナ禍を支えたデジタル教育

各学科でそれぞれの教員がSimCaptureの活用を考えるなか、仲田先生は、「成人看護学急性期領域ではアセスメントⅡの術後の観察の部分をSimCaptureで撮影して、後日それをグループで一緒に見てともに振り返る、というところから活用し始めました」という。当初は「まずは使ってみたという感じでした。活用していく中で他の科目にも使えると感じてきました」とも話す。

同校にとってSimCaptureの導入はこのときが始めてで、その“初

スキルトレーニングは
タスク的学習に
力を発揮してくれました

成人老年看護学



仲田琴美先生

看護学科 成人老年看護学講座 助教／日本看護研究学会、日本クリティカルケア看護学会、日本看護シミュレーションラーニング学会、日本看護科学学会所属。

めて”がプラスに作用したこともあったという。

「ベースがあったらそれを踏襲しようとしていたかもしれないがそれがなかったためゼロからスタートすることができました。ゼロから自由にやらせてもらったからこそ、できたこともあります」

同校で採用されたのはSimCaptureシリーズの中でもコース作成や学習者の成績管理までをトータルで行えるEnterpriseだ。

演習までの流れ

講義 糖尿病疾患に関する講義

事前学習	学生の事前学習
	①オンライン教材で一般手技の確認
	②演習で実際に使用する物品の確認
	③デモンストレーション動画の視聴
	④手技手順、注意点の確認
	⑤血糖測定手技動画の撮影

演習 自己血糖測定実技演習

Enterpriseはセッションの記録、動画による振り返り、コース・シナリオの運用、学習者の評価、シミュレーションセンターの管理、成績・記録・運用レポートの作成などが可能で、活用方法は多彩だ。

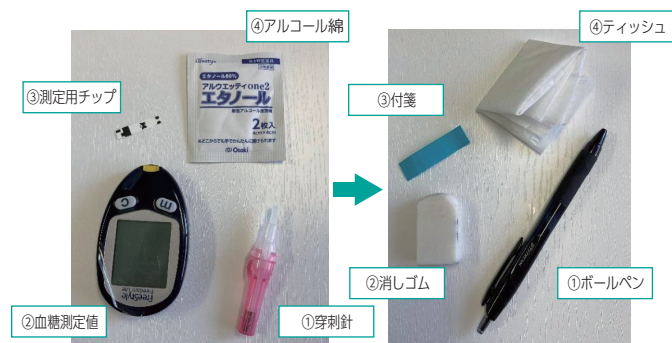
新たなシミュレーション教育へ

ここで仲田先生のスキルトレーニング活用方法をまとめてみよう。SimCaptureでスキルトレーニングを行うには、教師側の準備も重要となってくる。仲田先生は2018年から取り組んできたシミュレーション教育の経験から、学生たちがデジタルでのトレーニングを行う際の注意事項を細かく資料として用意したと話す。

「学生たちはスマートフォンなどの取り扱いには慣れていますが、初めて体験するSimCaptureにログインする方法や動画をアップロードする方法などは、分かりやすいように私自身のスマートフォンを使って動作確認を行いながらスクリーンショットを撮ったものを資料に貼るなど、工夫しました」

このようにして取り組んだスキルトレーニングが、「血糖測定」と「インスリン注射の技術演習」だった。コロナ禍以前のリアルな演習では事前学習としてオンライン教材・動画で手順を確認、手順書を穴埋めして持参し、演習時には教員が1つの手順を説明して実演して、それに倣って学生たちが順に演習をしていく、というものだった。

一方新たに導入したSimCaptureのスキルトレーニングにおいては、ログインした学生たちが事前に用意された動画や一連の手順・注意点を見て手技の確認・練習を行い、それをスマートフォンで撮影してアップロードしたのち、実技演習に臨むという流れとなった。これにより、自己血糖測定演習の時間が短くなり、血糖測定器の台数も少ないため、1人当たりの演習時間が限られるなどの課題を軽減すること



安全や台数の問題で実際の器具を事前学習に使用できないため、学生が用意しやすい代替品で手技を練習し、撮影した動画を提出してもらった

につながった。また、手技に対する学生の理解・習得度を促進できたという。

タスクトレーニングに力を発揮する

「やってみると、SimCaptureスキルトレーニングは演習に向いているのかなという印象を持ちました」と話す仲田先生。特に自分で何回も練習して動画を撮るところでタスク的学習にはSimCaptureは十分対応できると判断したという。

事前に動画を提出する仕掛けにしたのは「やってくれるのが一番大事」と考えたからだ。その後のフィードバックも課題と捉えて、演習前に自宅での振り返りを促したり、学生同士での振り返りを行ったりすることなども考えられると話す。

「コロナ禍が明け、演習は再開されていますが、いきなりぶっつけ本番ではなく事前学習が大切だと思っています」。その意味からも、演習に先駆けてスキルトレーニングを行うことはこれからも学生たちにとって欠かせない存在になりそうだ。

Student's Voice

～ SimCaptureを使用した学生の声 ～

1人で撮影するのが難しかったですが、自宅で練習できるのは良かったです。身の回りのもので代用でき、後日自分で復習する際にも使えると思います。

全員が課題を行って理解した状態で演習に参加できたことで、お互いに教えあうことができました。

しっかり練習してきたから大丈夫という自信を持って演習に取り組みました。動画を撮って事前学習することで授業の学びが深まったと感じます。

課題の途中で保存できたり動画を提出した後にもう一度見直したりすることができるともっと学習しやすくなると思います。

SimCapture スキルトレーニングとは？

学習者主導で手技を学習・練習し、スキル習熟度の向上を促せるクラウドベースの学習ソリューションです。学習者に自身の手技動画を撮影・提出させて確認・評価できたり、デジタルチェックリストを使用して、学習者同士でスキルの練習・相互評価・振り返りを実施させられます。



Laerdal
helping save lives

レールダル メディカル ジャパン株式会社
LMJ-MC-0184 | Rev.00-2502

お問い合わせは
こちらから

